

実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7~R9	新潟県新発田市	イノシシ、サル	◎	○	○	—

事業概要

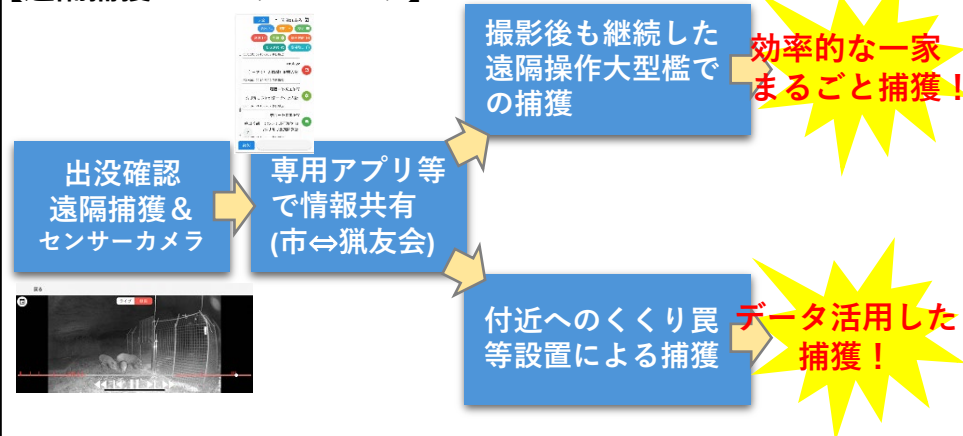
- ・イノシシ捕獲に遠隔操作捕獲機器等を活用し、幼獣のみの捕獲や学習個体の発生を防止し、精度の高い一家まるごと捕獲を実施
- ・行政、JA、市民がイノシシ・サルの被害・出没状況を投稿・確認できるアプリを導入し、各集落による迅速な自助・共助の対策を実施
- ・電気柵監視システムによる、柵管理の効率化と修繕の迅速化

【イメージ】



【データの利用イメージ】

【遠隔捕獲&センサーカメラ】



【電気柵監視システム】



	R7年度実績	次年度以降実施予定
<p>実証内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔監視操作・自動捕獲大型檻を設置した<b>3地区のうち2地区</b>で、<b>イノシシー家まると捕獲（計11頭）に成功</b>。川東地区では、徘徊する巨大個体の捕獲を行った。</li> <li>遠隔監視操作・自動捕獲大型檻と赤外線センサーカメラによって把握した<b>イノシシの行動パターン</b>（個体の大きさにより檻への警戒心がなくなるまでの期間が異なる家族内の檻に入る順番等）を<b>猟友会で共有</b>し、<b>捕獲檻やくくり罠などの設置時の参考</b>にするなど、<b>捕獲体制の強化</b>が図れた。 特に事前にカメラで把握された出没場所に大型檻を設置したことで、12頭捕獲され、<b>生息調査に基づく捕獲場所の選定の重要性が確認</b>された。</li> <li>電気柵監視システムにより、電圧を常にスマートフォンで確認できるようになり、<b>設置集落での管理の効率化やメンテナンスの迅速化</b>が図れた。 また、雑草等による漏電の状況が把握できるようになり、集落における草刈りや林縁部の刈払いの計画立て、タイミングに反映した結果、<b>最も重労働である夏場の草刈りの回数を減らすことができた</b>。 （例年7～8月期に4～5回（最大）実施していたが、3回まで減少）</li> <li>被害・出没状況の投稿・確認アプリについては、業者と細部仕様を調整</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="341 799 797 1049"> </div> <div data-bbox="922 792 1377 1049"> </div> </div> <p style="text-align: center;">積雪に関わらず来訪するイノシシが確認</p> <p style="text-align: center;">イノシシ捕獲中に出没したクマ以降イノシシは寄り付かなくなることが確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設置地区の見直し等を行った上で、遠隔監視操作・自動捕獲大型檻によるイノシシー家まると捕獲を継続実施。</li> <li>サル加害群のうち、個体数が100頭近くになる群れがあり被害が拡大しているため、<b>遠隔監視操作・自動捕獲大型檻を導入</b>し、<b>既存のテレメトリー調査と連携した一斉捕獲</b>を行う。</li> <li>大型檻設置場所と農作物被害状況を踏まえて選定した地区において、<b>獣サイズ判別センサー式自動捕獲システムを導入</b>。</li> <li>アプリについて、R8に協議会事務局による試験利用を行い運用と管理のルールを明確化し、R9に市民向け利用を開始。</li> </ul>
<p>導入機器 ※交付金活用外の機器を含む</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔監視操作・自動捕獲大型檻 ロボットまるみえホカクン（アイエスイー）3セット</li> <li>獣サイズ判別センサー式自動捕獲システム アニマルセンサーLITE（アイエスイー）6機</li> <li>赤外線センサーカメラ ハイカムLS4G（ハイク）6台</li> <li>鳥獣被害予防アプリ けものおと（アイエスイー）</li> <li>電気柵監視システム エフモスジュニア（協和テクノ）12台</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔監視操作・自動捕獲大型檻の新規購入</li> </ul>